

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
M212P205		看護過程論 (Nursing Care Process)					基礎看護学	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修	2	2	医学部看護学科	通年	月2,水2	日本語		オムニバス								
担当教員	氏名 内川洋子、清村紀子、佐藤祐貴子、佐藤佑佳、廣田美咲他、原田千鶴(非常勤)															
E-mail	未定 @oita-u.ac.jp 内線 5034															
授業の概要	看護過程とは、看護を必要とする対象の看護問題を解決するために、論理的に思考し、適切に行動するプロセスである。本科目では、問題解決的思考の基本を踏まえ、対象のニーズに応じた看護を実践する方法としての看護過程を学ぶ。また、その活用を支える代表的な中範囲理論を理解し、実践との関連性を深める。さらに、看護実践が患者と看護者の人間関係の中で成立することを理解し、関係構築力を高める手法として「プロセスレコード」の活用方法を学ぶ。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	看護過程の概念を理解し、看護実践における必要性と重要性を説明できる。															
目標2	看護過程の基盤である問題解決的思考やチームワークの必要性について説明できる															
目標3	代表的な中範囲理論を理解し、それを活用して対象者のアセスメントができる。															
目標4	個別的・全体論的な視点で患者を理解する必要性を説明することができる。															
目標5	長期目標・短期目標を見据え、優先順位を考慮して事例の看護ケア計画を立案できる。															
目標6	看護ケアの実施における倫理的態度を説明できる。															
目標7	適切に看護実施・評価の記録を記載することの必要性を理解し、説明できる。															
目標8	メンバーとの協働を通じて、患者の個性を考慮した具体的な看護計画を立案できる。															
目標9	看護実践において、看護者の人間関係能力の重要性を理解し、プロセスレコードを活用してその向上方法を考察できる。															
目標10																
各DPへの関連度(計10)						5	2	3	1			1	1			
授業の内容																
1	.看護過程の概論：看護過程とは何か 講義															
2	.看護過程の概論：看護過程の基盤となる考え方 講義															
3	.看護活用で活かす中範囲理論の理解：「健康知覚 健康管理」 講義演習															
4	.看護活用で活かす中範囲理論の理解：「自己知覚 自己概念」 講義演習															
5	.看護活用で活かす中範囲理論の理解：「役割 関係」 信念」 講義演習															
6	.看護活用で活かす中範囲理論の理解：「コーピングストレス耐性」 講義演習															
7	.看護活用で活かす中範囲理論の理解：「価値 信念」 講義演習															
8	.紙面事例を用いた看護過程展開講義・演習：Step1;情報収集 Step2:分析的アセスメントと結論															
9	.紙面事例を用いた看護過程展開演習：Step1;情報収集 Step2:分析的アセスメントと結論															
10	.紙面事例を用いた看護過程展開演習：Step1;情報収集 Step2:分析的アセスメントと結論															
11	.紙面事例を用いた看護過程展開講義・演習：Step3;全体像の図式化と記述化															
12	.紙面事例を用いた看護過程展開演習：Step3;全体像の図式化と記述化															
13	.紙面事例を用いた看護過程展開演習：Step1～Step3 のグループ成果の発表を通じた全体での意見交換・討論															
14	.紙面事例を用いた看護過程展開講義・演習：Step4;看護目標/看護上の問題点の抽出/期待される結果/ 具体的看護ケアプラン/評価計画の立案															
15	.紙面事例を用いた看護過程展開演習：Step4;看護目標/看護上の問題点の抽出/期待される結果/ 具体的看護ケアプラン/評価計画の立案															
16	.紙面事例を用いた看護過程展開演習：Step4のグループ成果の発表を通じた全体での意見交換・討論															
17	.紙面事例を用いた看護過程展開演習：模擬的看護実践の演習															
18	. . . 模擬的看護実践の演習															
19	. 紙面事例を用いた看護過程展開演習:グループ成果の発表を通じた全体での意見交換・討論															
20	. 看護実践過程における看護過程：1.対人関係を基盤とする看護過程 2.自己理解と他者理解の道具としてのプロセスレコードの理解 講義演習															
21	. 看護実践過程における看護過程：1.対人関係を基盤とする看護過程 2.自己理解と他者理解の道具としてのプロセスレコードの理解 講義演習															
22	まとめ															
23																
24																
25																
26																
27																
28																
29																
30																
ラ ア ク ニ テ ニ ン グ イ ン グ ラ フ	A:知識の定着・確認		B:意見の表現・交換		C:応用志向		D:知識の活用・創造		・事例のグループワーク ・リフレクションシートを用いた自己評価		・ロールプレイング		工 夫 そ の 他 の		紙上事例を用いたグループ演習と個人ワークを連動させる	

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	On-Demand教材の視聴（0.5h×6）文献の抄読（1h×6）										GW事前準備（1h×12）										
	事後学修	事例のグループ演習成果発表準備（1h×3）																				
	想定時間合計	24																				
教科書	黒田裕子著「しっかり身につく看護過程」（改訂第2版）照林社 ISBN-13 978-4796524230 黒田裕子編「看護診断のためのよくわかる中範囲理論」（第3版）学研メディカル秀潤社 ISBN-13 978-4780913996 高木永子「看護過程に沿った対症看護」（第5版）学研メディカル秀潤社 ISBN-13 978-4780911954 西崎祐史編「ケアに生かす検査値ガイド」（第2版）照林社 ISBN-13 978-4796524254																					
参考書	疾病論、成人看護学等の既習のテキスト Marjory Gordon：ゴードン博士の看護診断アセスメント指針（2006）照林社 ISBN-13 978-4796521246 1年次購入済																					
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10										
	期末テスト	40%																				
	問題解決的看護過程演習group成果演習 参加度・貢献度	20%																				
	問題解決的看護過程演習個人成果	20%																				
	プロセスレコード演習および成果	20%																				
リフレクションシートの提出を前提とする																						
注意事項	演習に関する時間外での個別指導を希望する際は、事前にGW担当教員と時間調整を行うこと																					
備考	看護の対象論（1年次）資料 他 1年次履修済、2年次履修中講義資料や参考書を活用する																					
リンク	URL																					
担当教員の 実務経験の 有無																						
教員の実務 経験	看護師：内川洋子、清村紀子、佐藤祐貴子、佐藤佑佳、廣田美咲他																					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無																						
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	看護師：原田千鶴																					
実務経験を いかした教 育内容	看護過程を「学問」としてだけでなく、臨床現場での方法論として指導できる。																					